

(2) 余暇支出面にみる若年層余暇と旅行

●若年層の余暇支出は激減

“若年層のレジャー離れ・観光離れ”は、余暇支出面でも明らかだ。一人当たりの年間余暇消費額の1997年から2007年の10年間の推移は、30代～60代では増えているが、20代以下の若年層では大きく減少している。

特に10代※では娯楽部門や観光行楽部門の落ち込みが大きい点が注目される。余暇消費のリーダーも、いまや若年層から中高年へとシフトしている。

※10代の消費額には家計からの支出が含まれると考えられる。

【年間平均余暇消費額の推移】

(単位:円)

		全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
スポーツ部門	1997	70,340	65,470	69,000	62,370	83,830	67,790	76,430	58,270
	2007	69,680	25,250	56,400	55,550	70,550	81,140	112,420	62,460
趣味・創作部門	1997	79,750	82,350	83,570	86,770	78,960	74,430	74,660	79,340
	2007	79,560	47,790	82,980	72,870	79,470	89,600	90,680	71,380
娯楽部門	1997	127,680	131,260	126,370	122,620	119,900	134,490	133,940	125,900
	2007	127,360	35,050	115,190	144,890	153,130	138,750	145,010	93,220
観光・行楽部門	1997	187,310	229,880	174,060	172,710	194,550	198,110	183,950	176,030
	2007	186,530	69,960	128,260	182,380	178,280	232,330	213,690	207,410
年間余暇消費額 (4部門計)	1997	465,090	508,970	453,010	444,480	477,230	474,820	468,980	439,530
	2007	463,120	178,050	382,840	455,700	481,420	541,820	561,800	434,470

注) 青は、この10年間で10%以上減少。黄色は10%以上増加したクラスター。

資料：日本生産性本部「レジャー白書」

●旅行支出は高いポジション

一方、余暇活動種目別の消費動向を見ると、若年層の余暇の中での「旅」のポジションはまだまだ高い(次頁図を参照)。男女とも第1位は「海外旅行」。「国内観光旅行」も男女とも上位10位以内と、91種目の余暇活動の中では消費額の高い活動となっている。ただし、男性の場合「国内観光旅行」よりも支出額の高い種目が女性に比べて多く、国内観光旅行の支出面での競合相手が多いようだ。

●支出面でも活発な若年層女性

支出面でも、やはり男女の差は顕著だ。第1位の「海外旅行」は若年層男性で激減しているが、女性の下げ幅は小さい。この8年で支出が伸びた種目は、男性3種目に対し女性は6種目。「パチンコ」や「バー、スナック、パブ、飲み屋」などどちらかというとなら男性中心のレジャーで女性の伸びが見られるなど、やはり“女性の活発さ”を示す結果となった。「国内観光旅行」も減少しているものの下げ幅は比較的小さかった。むしろ「スキー」「スノーボード」のような移動を伴う比較的高単価の余暇種目で支出の減少が目立っている。